

いし ぼたけ 石 畑 遺 跡

遺跡番号	南陽市M-1
所在地	南陽市金山川西字石畑
北緯・東経	北緯38度10分76秒・東経140度15分90秒
調査委託者	山形県
調査原因	主要地方道山形南陽線改良工事
調査面積	2,000㎡
現地調査	平成18年5月15日～8月10日
調査担当者	渡辺淳一（調査主任）・押切智紀
調査協力	置賜総合支庁建設部道路計画課、置賜教育事務所、南陽市教育委員会
遺跡種別	集落跡
時代	縄文時代、弥生時代、近世
遺構	土坑、溝跡、沢跡、ピット群、井戸跡
遺物	縄文土器、弥生土器、石器、土製品、陶磁器、銭貨 (文化財認定箱数：60)



調査の概要

石畑遺跡は、昭和30年頃当地区在住の上浦善助氏によって発見され、「周知の遺跡」となった。その後、県道改良工事に伴い、平成16年度に県教育委員会（以下県教委）による試掘調査の結果、事業区内の2,000㎡について記録保存が必要になり、県教委と山形県との間で協議が行われ、記録・保存を目的とした緊急発掘調査を実施することになった。調査区は、便宜上用水路から北をA区、南をB区とした。

遺跡は、南陽市金山地区に所在し、吉野川の河岸段丘

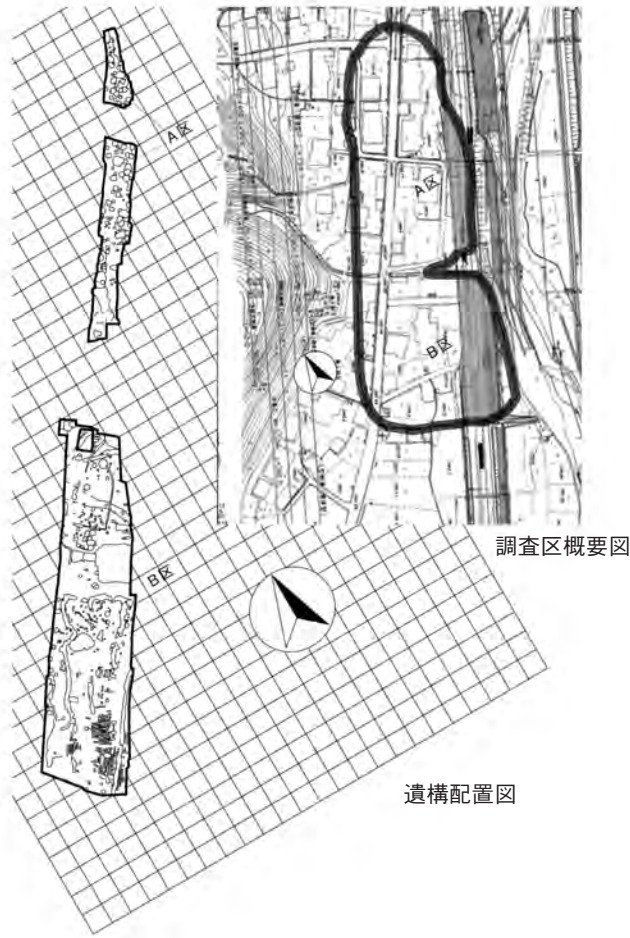
上に立地している。標高は290mを測り、遺跡面積は、1万㎡ほどである。

遺構と遺物

今回検出した主な遺構は、土坑や溝跡、沢跡、ピット群などである。土坑は、径1～2m、深さ50～60cmを測るものが一般的だが、1mも掘られたものもある。溝跡は幅1mのものが多く、上層からの削平で、覆土は何れも浅い。また、B区北側で確認面から1.5m下で検出された沢跡もあった。調査区西側から東側にかけて急激に落ち込む。ピット群は、A区北側に密集しており、掘立柱建物跡や竪穴住居跡の遺構の一部かもしれない。これらの遺構の廃絶した年代は、凡そ縄文時代中期末～晩期にあたる。

遺物は、60箱出土しており、縄文土器や弥生土器が大半である。縄文土器は、後期・晩期を主体に弥生時代のものも確認されている。石器は、石鏃や石匙などが見られる。大半の石材は頁岩を用いているが、中には鉄石英を使用しているものもあった。

この度の調査区域は段丘の川側にあるため、生活の拠点からは外れているようであった。集落の中心は、西側の山側にあったと思われる。



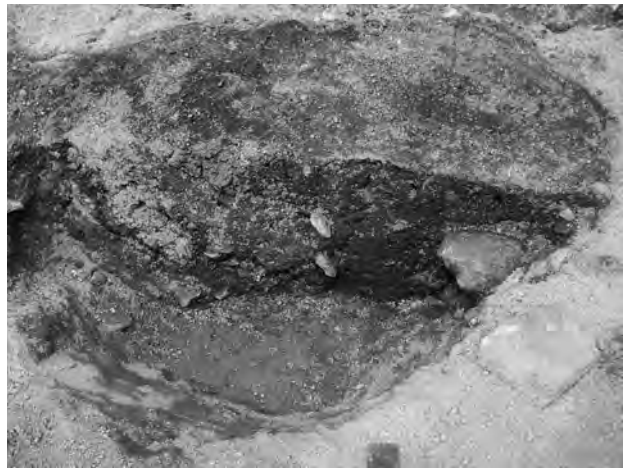
縄文晩期の注口土器



注口土器



調査区全景



土抗断面



遺物出土状況